

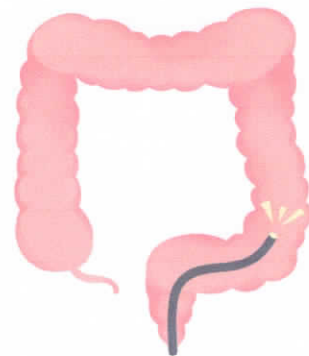
大腸カメラについて

検査室だより 2023.12

今回は当院で実施している内視鏡検査、大腸カメラについてお話します。

下部消化管内視鏡検査、いわゆる大腸カメラを受ける理由は为什么呢。

人間ドックなど検診目的を除けば、①何らかの症状がある②経過観察が必要な状態である、ということになります。①は大腸がん検診（便潜血検査）で陽性となった、下痢や便秘を繰り返す、血便が出た、などです。②は以前にポリープなどを指摘されていた、潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患に罹患している、などがあげられます。小さなポリープであれば切除しない場合もありますが、ポリープが大きくなって癌になる可能性があるため、サイズや形態の変化などがないか定期的な観察が必要です。潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患は、発病して年数を経ると大腸がんを合併するリスクが高くなるため、こちらも定期的な内視鏡検査が必要になります。



大腸カメラは前処置といって、まず腸管の中を観察しやすくするためにきれいにすることがから始まります。検査前日に錠剤、液剤の下剤を服用し、当日は朝から数時間かけて1ℓ以上の腸管洗浄剤（当院ではモビブレップを使用）を飲みます。条件によりますが、腸管洗浄剤を飲んで便がきれいになるまでを自宅で行うこともできます。

実際の検査は、車などの運転ができないなど制限はありますが、胃カメラと同様に鎮静剤を使用して楽に検査を受けていただくことができます。大腸カメラは肛門から挿入し、大腸の一番奥である盲腸、その先にある小腸（終末回腸）まで到達したのち、詳しく観察しながら引き抜いてきます。必要に応じて粘膜の一部を採取したり、ポリープがあればその場でポリープ切除を実施します（希望時）。ただしポリープが大きいなど、医師の判断により他院に紹介になることがあります。

検査の費用ですが、保険の負担割合により異なりますが、3割負担の方を例に説明します。検査自体は約5,000円。診察料や薬剤費などが加算され、大腸カメラのみであれば6,000円程度ですが、粘膜の採取やポリープ切除を実施した場合、最大で30,000円程度となります。

お気軽に医師・看護師までご相談ください。